



鳥獣対策
特集



ゴルフ場からのレポート

被害減少を目指す～鳥獣奮闘記2018～



近年、全国的にゴルフ場においても鳥獣（イノシシ、シカ、猿、カラス等）による被害が拡大している。特にイノシシ、シカについては生息区域が急速に拡大しており、深刻な被害が報告され、徹底した対策が求められている。

そこで昨年、6月号において本誌で初となる『鳥獣対策特集』を組み、多数の反響をいただいた。今年度は成功例だけでなく、失敗例や課題など、3コース（君津香木原CC、鹿野山GC、塩嶺CC）に話を伺うことができたので、奮闘記を順に紹介していきたい。

まず、緩やかな丘陵地に広がる、**君津香木原カントリークラブ**（18H、千葉）の菊岡克徳サブキーパーに登場いただく。

様々な対策方法を試行
イノシシとの葛藤を振り返る

「当クラブは千葉県君津市と鴨川市との間にある山岳コースのため、早朝はリスや野ウサギなども見かけることのできる、のどかなコースです。そんなクラブへ広島のコースから移って来たのが4年前、来た当初は、あんな悲劇的なコースを見ることになるとは思いもし

ませんでした。

他業種から心機一転、ゴルフ場のコース管理に就職したのが8年前、広島のコースでも、キーパーがイノシシ被害に頭を悩ませていた時でした。新入社員当初はイノシシ被害を修復するのもバズルみたいで楽しいと、芝を直していました。しかし、日々拡大する被害面積、単調な作業に嫌気がさしていた所、外周をネットで囲うことになり、被害も減り、たまに入られた所を補修すれば良いだけになりました。

そんな広島のコースから移って来て最初の年は、10月頃から2、3週間に1、2回イノシシが始め、被害面積も狭く（10〜20㎡）、決まった箇所を掘り返す程度で、カプサイシン入りの剤やクレゾール等で対処していました。外周には電柵が張られているし、地元のは猟友会の方が罾を仕掛けてくれたので、小規模に抑えられているのだと思っていました。管理スタッフから2、3年前からイノシシが入り始めたが、今年は少し被害面積が広がっていると不安な声も…。

そして、悲劇の2年目。1年目



イノシシによる被害（君津香木原CC）



と同じく10月頃から出始め、いつもと同じ箇所を掘り返しはじめてから、どんどん被害箇所が増えていき、イノシシ被害の無いホールはないほど毎日のようにやられ、最終的にはマスター室のスタッフを始め、所属プロ、支配人まで手伝わってもらって修復するまでになりました。対策として、ラジオかけっぱなしのトラックを夜間置いておいたり（トラックの横を掘り返される）、チカチカ光る照明（照明ごと掘り返される）、猟友会の方に効果的に罠を設置してもらうため

に、イノシシの侵入してくる所を特定しようと、カメラを設置したり（罠にはかかるが被害は減らない）、管理課社員を当番制にし、夜間の見回りをしたり（朝までコースをぐるぐる回るが反対側のホールを掘り返される）とあらゆることを試しましたが、減る様子もなく、重い気持ちでコースの巡回をする毎日でした。コース管理課



既存のボール止め用のネットも活用

の精神が疲弊していく中、オーナーが視察に訪れ、早急に外周を囲おうとの指示のもと、やっと解放される安堵感。しかし、基本的にコース外は県有林や国有林で予定の場所を通せないとか、下が岩盤で杭が立たない、足場の悪い崖の上にネットを通す等、大変な作業でしたが、既存のポール止め用のネットを活用したりと、なんとか張り巡らせることに成功し、イノシシ被害を減少させることが出来ました。それからは、ネットの弱い所（低い所を飛び越える、ネットの下を掘る）から入ってくるものを補修していく程度に抑えられています。猟友会の方たちに罾を仕掛けていただいているのも、多い時には週に5頭以上捕れることもあり、周辺の山へのイノシシの拡大は脅威的になっていきます。猟友会の方の話では、イノシシは縄張りがあるため、捕獲して一時は減少しても他の群れが入って来てしまうとのこと。実は、近所に被害が少ないゴルフ場があり、十数年前から捕獲したイノシシを管理課で飼育している所があるのですが、それももしかしたら減った要因かと思っています（本当は、

外周を電柵で綺麗に張っているので、だとは思いますが）。

四苦八苦の毎日 シカの被害についても振り返る

そして実は、イノシシ被害以外にも転勤当初、問題になっていたのが、シカによる被害でした。

シカの群れが多数存在し、カラー、グリーンへの食害、爪の引っ掻き傷、ティ、アプローチ、FWとコース内あらゆる所へのフンによる被害でした。春先から食べら

シカの群れ



れ始めるグリーンへの食害に対しては、シートを掛ける等の対策をしたものの良い結果は得られず、時期が来ると薄目砂をすることが一番良く、被害を無くすことが出来ました。引っ掻き傷は夜間につけられるものはしょうがないとしても、朝の見回りの際にシカを見かけても追い出そうとはせず、ゆつくりとグリーンの方へ回り込み、ティ方向へ追い出すことにより減少しました。そして何と言っても一番しんどかったのがフン害でした。雨が降ったりでコース内がゆるくなっている場所やティへは、スリーパーは進入できないため、全て手作業で取り除いていました。管理スタッフがIN、OUT二手に別れ、ティからグリーンへと歩きながら、ホウキとちりとりで肥料袋に集める作業、通称フン取りという作業が日常的にあり、毎朝○○さんと■■さんはフン取りというと、健気にフン取りセットを持ってコース内を歩き回るスタッフの後ろ姿を見ながら、せつない気持ちになりました。1人が1袋、肥料袋いっぱいになるほどシカのフンを集めきれいにしても、翌朝にはフンだらけでまた集める毎日

でした。イノシシ被害の所で、猟友会に罾を掛けてもらっていると聞きましたが、当初はシカを捕獲するためでした。毎朝の巡回の際に、あちこちで見られたシカの群れも2年ほど前から、たまに1、2頭見かけるぐらいになり、現在はフン取りという作業もなくなり、朝の作業時間を有効に使えるようになりました。というのも、イノシシ対策のために設置したネットにより、シカもコース内への侵入を嫌がり、さらにネット際を歩くことにより罾にもかかりやすく、

モグラの跡





モグラ返し

みるみる減っていったのです。現在も猟友会の方たちにイノシシ、シカを合わせて年間150頭以上捕獲してもらっています。

現在は、モグラ被害が拡大しつつあります。広島のコースでは、表面近くに横穴を掘って侵入してきていたので、コースへの侵入口に割り箸を数本差すだけで対応できていたのですが、こちらは深い所から縦に穴を掘ってくるため、罠などを設置しているもの思うような結果は出ず、対策に苦慮しています。また、グリーンへの侵入が見られた箇所には、早急にトレンチャーで溝を掘り、畦シートを埋設しています。モグラ対策が今後の課題です。

冬は必ず春となるように、悲惨な状況になってしまったコースも、今ではお客様からお褒めの言葉をいただけるまでになってきました。自然と共存していかなくてはならないゴルフ場で、自然の猛威と戦いながら、今後さらなる努力をしていこうと思っています」

様々な鳥獣が発生 現状と対策、問題点について

次は同じく千葉県にあり、丘陵コースの**鹿野山ゴルフ倶楽部**(27H、千葉)の施設管理課課長、榎並尊之キーパーに登場いただく。

「弊社では、平成14年頃からイノシシによる被害が現れ始め、当初の対策として有刺鉄線を外周に張

り侵入を防ごうとしましたが、張り替えが必要な程芝地を掘り起こされ、プレーに影響を及ぼす程になりました。年々被害が拡大してきたため、平成19年に自社施工にて全長4000mの電気柵を周囲に施しました。設置から約10年電気柵で防ぐことができていたものが、イノシシの個体数が増えたのか、イノシシの学習能力が勝ってきたのか、電気柵の管理不足なのか侵入が始まりました。

3年前、電気柵を平気で行き来するイノシシが現れ、毎日何処かのコースに大きな被害があり、毎日コース補修から始まる日々が続きました。このイノシシは猟友会の協力で捕獲駆除できましたが、忘れたころにまた違うイノシシが侵入し、大きな被害がありました。

一般にイノシシが嫌うといわれたモノを試しましたが、当ゴルフ場では効果なく、特に風鈴を設置すると効果があるとアドバイスしていただいたので試しましたが、被害は止まりませんでした。話を聞いて大変共感し、期待したのですが残念な結果でした。ただイノシシにも色々居ますので全てではないと考えます。このイノシシも捕

獲駆除に成功し、被害は収まりましたが、いつまた電柵を突破し、コースに多大な被害があるかわかりません。現在一番信用がおけ、メンテナンスも簡単なフェンスを施さなければならなくなりました。1期で施工するには大変な金額がかかるため、電柵と併用しながら数期に分けて施工、経費削減のため自社施工の形をとる等、コース管理以外にも人員が必要になっていきます。

そして猿は常に出没しています。電柵と併用しながら数期に分けて施工している、鹿野山GCのフェンス



が農業地域と違い、木の実等を食べに出てくる程度でプレーに影響することは無いですが、獣などの目を合わせない様にお客様に説明することも必要と思われます。その他、モグラも常に発生していますが、機械（モグセンサー）による捕獲やミミズを減らす薬品が功を奏しています。

また現在は、カラスによる被害が多く、来場客の荷物を荒らしたり、持ち去る等の被害が出ているので、注意喚起するだけではなく



モグラ対策で導入した「モグセンサー」(鹿野山GC)

荷物に覆い被せる物を作製する等の対策をしています。

最後になりますが、今後の課題としては農業地域ではないため、補助金等が出ることもなく、従業員も高齢化や管理人員の不足により機械化する一方で、会社として安価で有害鳥獣の被害を抑える方法を見出す様に考えなければなりません。しかし当ゴルフ場は、国定公園に隣接しているため、自然を活かした立地である鹿野山では外観を損なう様な対策は取れないのも問題点として挙げられます」

フェンスを購入し、自社で設置 モグラ用のワナも導入

本特集の最後を飾るのは、長野県の中央に位置し、標高約1000メートルの自然を生かした、**塩嶺カントリークラブ**（27H、長野）の所恒昭副支配人（兼キャディマスター）。なお、所副支配人は今年の3月まで同CCのコース管理部部長で、キーパー歴は18年だったという。

「イノシシの被害が出始めたのは2010年の秋からです。コース間に山林が多く奥まった地で開場40年近くなるのに、それまで被害



タイトクロスフェンスを自社で設置（塩嶺CC）

効果を発揮している、モグラ用の筒状のワナ（塩漬CC）



がでないのは当時、他コースから不思議がられていました。どうとうウチも来たか」という感じでした。それからというものの、ご多分にもれず張り直してはやられの繰り返しが続きました。幾多の忌避剤を試すも決定打はなく、当初はそれ程ではなかったのが徐々に箇所が増え被害が広がっていきました。このままではいけない、ということ狩猟免許を取得し、ワナを仕掛けようということになり、早速地元猟友会から紹介を受けたお師匠さんから、ワナの購入から設置、かかった時の処置の仕方まで手ほどきを受けることになりました。それからというもののキーパーの仕事をそこそこに、山の中を駆け回る日々が続きました。師匠と一緒に手取り足取り手ほどきを受けやっつてはみたものの、当コースは殆どが鳥獣保護区ということもあり仕掛ける場所が限られ、成果は上がりず、ワナが作動した痕はあるけど捕まらない、どうやらイノシシの方が一枚上手で、かかった獲物は目的外の鹿が3頭ほどでした。ほとほと困り果てた折りフェンスの設置許可が下り、とりあえず侵入経路と思われる場所5

00mに設置しました。それは諏訪湖CCより紹介を受けた、タイトクロスフェンス」という製品で自社にて設置しました。この製品は強固な上に設置が簡単、電気柵より効果が高く、メンテナンスがいらないということで選びました。そして2年目の春を迎え、被害はほとんどなくなりました。フェンスの効果が表れたのか、あるいはその冬は積雪が多く自然淘汰したのか、はたまた猟友会の活躍だったのか理由はわかりませんが、その後被害は嘘のようになくなり、現在も現れた形跡はあるものの顕著な被害には至っていません。今後また被害が出た場合どのような対策を取るのかが課題です。

モグラについてですが、やはりイノシシと同じ頃から被害が目立ち始め、忌避剤やワナ（センサー式の針で刺す箱状の物や簡単な筒状のタイプ）など試すものの効果はでませんでした。そこでインターネットで色々調べてみると、とある製品を発見しました。早速電話すると来社して指導してくれるとのこと、それは(有)オガワテクノさん（茨城）の筒状のワナでした。長年モグラの生態を研究してたど

り着いた形だそうで、モグラのトンネルに仕掛け、入ると蓋が閉じ出られなくなる仕組みです。このワナはモグラの新しい本道に仕掛けるのが肝心で、日々彼らの動きを観察して捕まえるポイントを絞り込むことが捕獲率を上げるそうです。最初の内は5箇所仕掛けて1箇所捕まる程度でしたが、経験していくうちに徐々に捕まり始め、現在は彼らの生態がなんとなく分かり、8〜9割捕えられる強打者（笑）になり、年間50匹ほど捕えています。

その他、キツネやアナグマ、カラス等の被害はありますが目立った被害にはなっていません。野生動物にとって好環境であるゴルフ場では頭の痛いことですが、知恵を使って対処したいものです」

以上、3コースからの奮闘記と題した、鳥獣害対策の報告や課題を掲載した。近年、ゴルフ場においても鳥獣による被害が拡大していることから、弊社にも対策や事例等の問い合わせが多数寄せられている。本誌では今回のような「奮闘記」や事例、対策方を今後も掲載していきたいと考えている。